

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12125

研究課題名(和文) 看護教員の教育力量形成に関する研究 事例検討を用いた授業力量形成の過程

研究課題名(英文) A study of nursing teacher educational skill formation - The process of formation of lesson skills using case studies -

研究代表者

徳本 弘子 (Tokumoto, Hiroko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：00315699

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：看護教員の教育力量、特に授業力量(授業展開能力)の形成を支援する看護教員を対象とした専門職公開講座で議論された事例・授業案等授業資料をデータベースに、看護教員が事例検討することで形成される授業力量形成過程を明らかにすることを目的とした。まずこの事例検討の過程で体験する教育の視点を明らかにした。次に新人から事例検討を続けた経験教員に面接調査を行った。結果協同的な事例検討は新人教員にとって「自分の事例と他者の事例とを重ね、見えていなかった教育の視点に気づく」場であった。さらに適切な教育手法を「発見」し、「意識的教材化」を試み、日常的な場面で教育的思考と手段を「応用」することを身につける場となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は看護教員の教育的視点や教育的思考の形成過程を明らかにすることで、看護教員に求められている授業力量(授業展開能力)、特に新人の教育視点を獲得するための研修の必要性を示すものである。また看護教員の教育実践の経験を科学的系統的にリフレクションすることで看護教員の教育実践能力を高める研修方法として教育事例の検討を提案するものである。看護教員の教育事例検討の実践方法とその成果を明らかにすることで、各施設でのFDとして教育事例をもとに教員特に新人教員の授業力量を高める制度研修の方向性を示すことにもなると考える。

研究成果の概要(英文)：This study aims to understand the process of the formation and development of the educational skills of nursing teachers. The data was materials obtained from lesson plans and cases presented and discussed at a professional open lecture for nursing teachers supporting the formation of educational skills, specifically lesson development skills (skills in developing lessons). Methods: An action research approach was employed. Results We discussed and analyzed ten cases of novice teachers, six lesson ideas/plans, and evaluation forms of experienced teachers presented at the open lecture, and ten areas of lesson study approaches for practical lessons all described in a matrix.

研究分野：看護学教育 理論看護学

キーワード：看護教員の教育力量 授業展開能力 看護教員の授業研究 レッスンスタディ 看護教員の熟達化 教育事例 リフレクション アクションリサーチ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

看護教育者の中心的課題は、学生の理解を基盤にした学生のパフォーマンス、能力を形成することである。したがって教員は、学生の能力を査定して、学生の能力を育成する教育力量を高めることが課題となる。これは臨床で求められる能力が、実践の場で起こる様々な問題に対応し、その場に合った思考と判断ができる看護実践能力に移行したため、看護教育は、その基礎力として学生が主体的な学びと知識を状況に合わせて使用する能力形成が要求されているためである。教員は今まで知識注入を中心に行ってきた講義形式の授業から、学生のアクティブラーニングを支援し、学生個々の能力獲得の支援ができる教育力量が求められている。これは学生の個別の学習目標を設定しつつ到達目標・教育目標に到達するよう支援することが求められている。つまり、学生の学習の質は教師の教育力量にゆだねられている。一方教育実践の現場で新人看護教員は、多くの困難を抱えている。この新人看護教員の困難について筆者らの新人看護教員の研究(徳本,2015)では、新人看護教員は、看護実践とは異なる教育の場で、学生を把握できず、学生理解の方法も獲得していないことを明らかにした。また教育目的、学生の学習目標の把握がなされないまま、学生の行動を感覚的に捉え看護師の位置で対応していることが分かった。この研究対象者は教員養成講習会を受講し、教育の基礎学問を学んでいる。新人教員が学んだ教育の理論が使えない現象について、コルトハーゲン(2014)は、教員養成において多くの講義は、学生の持つ経験から獲得した信念(素朴概念)を変えることができないとし、専門的な課程をへても変更されないとしている。また講義で注入した理念や概念によって行動変容することはないとも述べている。また、看護職者の学習と適用について研究した和住(1996)は、学習と適用の間に修得過程が介在することを明らかにした。この研究では看護職者は現象を自分の位置から描きやすく、現象を部分的に意味づけ、一貫した目的意識に統合されにくいという対象認識の傾向を持っていることを明らかにした。この傾向を克服するためには異なる対象像(対象把握)との看護職者間の相互研鑽を繰り返し、方法論を意識的に適用する中で獲得できるとしている。

看護教員の教授力量に関する看護学領域の研究は教授力量の概念抽出研究、教授力量を教員自身の自己評価で測る量的研究は多いが、教員の授業力量である実際場面の視点や思考、選択した手段についての研究はない。一方、義務教育の教員の授業力量研究では新人教員の教育場面の視点や思考、手段に注目した研究、教師の教育力量を形成する過程の研究は多い(浅田ら,1998)。これらの教師の授業力量形成の先行研究は、教育実践を他者と協議する授業研究の経験、授業終了後の他者とのリフレクションが教師の授業力量形成を促していた。秋田(2008)は、授業実践は教師、生徒、教材との関係の中で様々なことが同時に要求され、複雑さの中で実際判断がどのようになされるかを学ぶ必要があるとしている。新任教員はこの複雑性による困難を体験しており、新人教員が困難への対応を学ぶ場として事例を通しての学習があると述べている。また事例は、初心者に専門家らしく考える機会を提供するとしている。さらに事例検討は、教師それぞれが<体験>したことを科学的・構造的に捉え返し、次の教育実践の構築に向けていく省察の場であると述べている。これらの研究から、事例検討の場は学びの共同体として教員の授業力量形成のみならず教員としての成長発達を支援する場でもあるといえる。

2. 研究の目的

上記の背景を基に本研究は以下の目的で行った。

1) 看護教員が教育実践場面で生起する実践的な問題について、事例を基に協同的に議論

の場で新人教員、経験・熟達教員の状況認識、対象認識、手段・対応の違いを明らかにする。

2)教員が協同的な事例検討の場を通して新人教員は教育実践場面の状況認識、対象認識、手段・対応がどのように変化するかを明らかにする。

3. 研究の方法

授業力量を明らかにするために教員の困難場面を振り返った事例、授業案を基に教育事例検討会を継続的に行っている専門職公開講座をデータベースとしアクションリサーチの手法で行った。本研究における新人教員とは教員熟達化研究の枠組みを採用し教育の現場で教員経験1年～3年目の者。さらに経験教員は教員経験5年以上の経験がある者、熟練教員は10年以上の経験とした。授業力量とは授業展開に使用する指導技術・方法、教材研究、看護の概念、学生の理解、学生集団形成の支援等の思考と方法を内容とした授業に対する認知と行動とした。看護教員の成長は、丸野らの教員の協同的な対話による授業研究による教員の成長モデルをもとにデータ収集した(丸野・松尾2008)。

1)対象は、2017年～2018年公開講座に参加した新人看護教員、経験教員の提出事例、授業案等資料と事例検討の議論とした。経験教員は新人教員から継続的に公開講座に参加した看護教員とした。

2)分析データは公開講座に参加した新人教員の事例、経験教員の提出資料、事例検討中の質疑応答、事例検討後の面接調査の発話を録音しテキスト化したもの。

3)分析方法は提示された事例、指導案の授業視点と事例検討の発話の視点について音声データをもとに教員(新人、中堅、熟練)がとらえる困難場面の対象認識、状況認識、方法・対応を抽出し、稲垣・佐藤ら(2001)の実践的授業研究課題領域マトリックスの視点を基に分析し、新人教員と経験教員の事例作成時点の視点と事例検討での他者の視点を比較検討した。さらに新人教員から事例検討に参加した経験教員を対象に、経験を重ねて変化する視点や思考と判断について半構造化面接調査し、発話データを質的に分析した。

4. 研究成果

1)教員の事例検討は2017年～2018年各10回行った。事例検討の場に提出され議論された新人看護教員事例10例、経験教員提出資料6例を対象とした。新人事例提出者はすべて経験1年未満であり、経験教員から提示された資料は授業案、授業計画、評価であった。これら事例、資料を実践的授業研究課題領域マトリックスで分析した結果、新人教員の事例の視点はすべて教員自身の思いの記述と学生(教員から見えた言動)のみの記述であった。一方それらの事例検討の議論は～の視点であった。すなわち教師としての指導に関する視点 教師の学生観 指導技術や教材観 授業構成(目的目標の確認) 教材 学生相互の関係 学生の学習内容確認や思考 学生の学習環境や文脈 学習内容と構成 教材資料についての質問が経験教員から投げかけられていた。一方経験教員6例の資料は、すべて視点からの記述があり、議論はから学習環境についての質疑応答がなされ、参加者からは質問者の捉える教育的意味、参加者の経験、授業の工夫が表出され視点を深める議論がなされていた。これらの結果の詳細は学会で報告した。

2)経験教員を対象に、経験を重ねて変化する思考と判断について半構造化面接調査できた教員は9名であった。全員女性で教員経験年数は平均5.5年であった。新人教員の頃、事例検討は「自分の事例と他者の事例とを重ね、見えていなかった教育の視点に気づく」場であった。さらに継続して参加すると「授業案を提示したこ

とで、気づかずに身体化された知に気づくとともに、自己の認識の特徴、不足していた視点に気づく」場となった。新人教員から中堅教員へと差し掛かる段階になると何が有効なのかを判断する視点と教育力量が成熟し、[事例を基に状況を分析し適切な教育手法を発見する]ことができるようになった。新人教員時代には熟練教員の教育実践の模倣でしかなかった実践が成功体験を重ねることで、確固たる根拠のもと[看護教員として場面を意図的に教材化]できるようになった。また、学生とのかかわりだけでなく保護者や同僚への助言場面など[日常の場面に教育的思考と手段を応用していく]ことも可能となった。さらに事例検討の経験を重ねるとで「発見」といった指導案を基に状況を分析し適切な教育手段や視点を発見する段階があり、「意識的教材化」あらゆる場面を意図的に教材化する段階を経験し、「応用」といった日常の場面に教育的思考と手段を応用していく自己の授業展開について評価する段階へと教育実践場面の状況認識、対象認識、手段・対応を事例検討の場面を重ねて獲得していたことが明らかとなった。この結果は学会で報告した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Hiroko Tokumoto, Katsura Goto, Makiko Arai	4. 巻 4
2. 論文標題 Reflecting on Clinical Training Instruction: Improving New Instructors' Capabilities	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Athens Journal of Health	6. 最初と最後の頁 2 - 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新井麻紀子 徳本弘子 黒田るみ	4. 巻 7
2. 論文標題 新人看護師は事例検討の中でいかに経験を実践的な思考と手段に変換したか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保健医療福祉科学vol.7	6. 最初と最後の頁 40 - 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Rumi Kuroda, Hiroko Tokumoto, Makiko Arai
2. 発表標題 Lesson study for nursing teachers Educational ability that can be acquired by studying educational cases
3. 学会等名 7th Edition of Virtual Conference on NURSING EDUCATION & PRACTICE with the ZOOM
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徳本弘子、黒田るみ、新井麻紀子
2. 発表標題 看護教員のレッスンスタディ 新人看護教員の授業力量（授業展開能力）形成のための授業視点の獲得方法の検証
3. 学会等名 日本看護科学学会第40回学術集会 web開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安部安恵、浅野みち代、野口 昌美、馬場 淑恵、道屋純子、黒田 るみ、徳本 弘子
2. 発表標題 在宅看護過程の対象理解を深める授業設計と評価
3. 学会等名 日本看護学教育学会第30回学術集会 web開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平塚厚子、浅野みち代、安部 安恵、野口昌美、大原恵美、馬場淑恵、道屋純子、徳本弘子
2. 発表標題 災害看護シュミレーション演習「経験シート」からの学び
3. 学会等名 日本看護学教育学会第30回学術集会 web開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徳本弘子、道屋純子、大原恵美、細田恵奈む
2. 発表標題 交流セッション「授業研究(レッススタディ)からの学び 学生が学び方を学びつつ看護実践能力を身につける授業構築と評価
3. 学会等名 日本看護教育学会第30回学術集会 2020年8月web開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野口昌美、安部安恵、平塚厚子、浅野みち代、大原恵美、馬場淑枝、黒田るみ、徳本弘子
2. 発表標題 高齢者の生活機能と対象の持つ力に焦点をあてた授業・実習評価
3. 学会等名 日本看護学教育学会第30回学術集会 2020年8月 web開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徳本弘子、道屋純子、浅野みち代、細田恵奈む、大原恵美、馬場禎淑恵
2. 発表標題 交流セッション「学生が学び方を学びつつ看護実践能力を育成する恵授業構築」
3. 学会等名 日本看護学教育学会 第29回学術集会 2019年8月京都
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安部 安恵、浅野 みち代、馬場 淑恵、道屋 純子、黒田 るみ、徳本 弘子
2. 発表標題 在宅看護過程の対象理解を深める授業設計と評価
3. 学会等名 日本看護学教育学会 第29回学術集会 2019年8月京都
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野口昌美、阿部安恵、道屋純子、平塚厚子、黒田るみ、徳本弘子
2. 発表標題 実習で活用できる老年看護学における看護過程の授業設計～評価基準の明確化と目標到達状況の把握～
3. 学会等名 日本看護学教育学会 第29回学術集会 2019年8月京都
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平塚厚子、浅野 みち、徳本弘、黒田るみ
2. 発表標題 夜間実習の「経験学習シート」から見た学生の経験からの学び 臨地実習
3. 学会等名 日本看護学教育学会 第29回学術集会 2019年8月京都
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新井麻紀子, 徳本弘子, 鈴木康美
2. 発表標題 看護教員の教育力量形成に関する研究 事例検討を用いた授業力量形成の過程
3. 学会等名 日本看護科学学会 第39回学術集会 2017年12月東京
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場淑恵、徳本 弘子
2. 発表標題 看護専門学校における熟練教員の講義場面での瞬時の判断と意思決定の特徴
3. 学会等名 日本看護学教育学会第27回学術集会 2017年8月沖縄
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅野みち、平塚厚子、石橋佳子、野口昌美、鎌田廣子、朝倉由美、安部安恵、細田恵奈む、徳本弘子
2. 発表標題 臨地実習場面の学生の良い変化が見られた教員の指導の共通性
3. 学会等名 日本看護学教育学会第27回学術集会 2017年8月沖縄
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 道屋 純子、大原 恵美、成塚 三恵、徳本 弘子、鎌田廣子、平塚厚子、浅野みち代、野口昌美、朝倉由美、細田恵奈む
2. 発表標題 探求型学習で技術習得を目指す授業のつくり方
3. 学会等名 日本看護学教育学会第27回学術集会 2017年8月沖縄
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細田恵奈む、平塚厚子、朝倉由美、大原 恵、道屋 純子、野口昌美、浅野みち代、鎌田廣子、徳本弘子
2. 発表標題 臨地実習指導困難事例に対話的リフレクションを活用した学習支援の検討
3. 学会等名 日本看護学教育学会第27回学術集会 2017年8月沖縄
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新井 麻紀子 (Arai Makiko) (10644552)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教 (22401)	
研究分担者	黒田 るみ (Kuroda Rumi) (70365188)	人間総合科学大学・保健医療学部・教授 (32419)	
研究分担者	鈴木 康美 (Suzuki Yasumi) (70781285)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授 (22401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------